



報告

福岡県科学技術フェア 九州大学箱崎キャンパス

12月21日(土)に九州大学箱崎キャンパスにおいて、「福岡県科学技術フェア」が開催されました。県内の多くの高校生が集まり、講演や活動報告などが行われました。

- ① 講演会
- ② 活動報告
 - ・理数オリンピックセミナー受講者による報告
 - ・科学的思考力向上セミナー受講者による報告
 - ・科学系部活動の生徒による活動報告
 - ・SSH活動報告
- ③ 科学系部活動の生徒によるポスター発表

① 講演

「技術はいかにして制御不能となるか
 —原発事故の経験を踏まえて—」

講師 九州大学副学長 大学院比較社会文化研究院
 教授 吉岡 斉 先生



吉岡先生は原子力政策論を重要な研究テーマとして活躍しておられ、今回の講演では原子力政策の歴史を踏まえ、今後の原子力発電の是非を判断するデータなどを多く提示して下さいました。

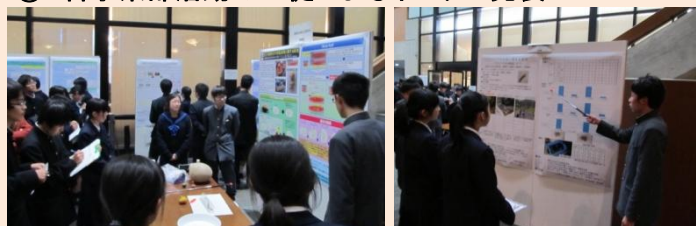
この問題は日本が抱えている課題の一つであるため、高校生も興味を持って拝聴していました。生徒が、自分で科学的に判断する力とその習慣を身に付けることができる人間へと成長することを期待しています。

② SSH活動報告



今年度でSSH指定3年目となる香住丘、八幡、嘉穂の3校が活動報告を行いました。本校は代表生徒2名が、緊張しながらも本校のSSHの特色をしっかりと説明し、分かりやすく発表を行いました。

③ 科学系部活動の生徒によるポスター発表



本校からは物理部と2年1組の生物班が参加しました。会場では、12校23テーマと多くの高校生が熱心に説明・質問を行っていました。他校の生徒や先生方を相手に、緊張した様子も見られましたが、活発な良い質疑応答ができていました。物理部からは物を見せながら説明するなど、ポスター発表の技術向上も感じられました。他校の活動から刺激を受けられる良い機会となりました。

報告

先端科学研究講座 九州工業大学情報工学研究院

「データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く
 —血液型で性格判断できるってホント？

認識って実は何？—」

九州工業大学情報工学研究院 教授 廣瀬英雄 先生



12月20日(金)に統計学に関するテーマで、先端科学研究講座が行われました。血液型性格判断やインフルエンザの流行予測など身近な話題が多く、興味を持って講演を聴くことができました。

海外には統計学に関する学部があることや、これからの社会における統計学の重要性をはじめと知った生徒も多く、大変学ぶべきことの多い講演でした。

報告

英国ケンブリッジ大学科学研修 事前学習

平成26年3月20日～27日の8日間に渡って、第2回英国ケンブリッジ大学科学研修が実施されます。今年度も学校代表の2年生生徒10名が参加します。12月6日に行われた英語プレゼンテーション特別講座を皮切りに、事前学習が始まりました。

①「英語プレゼンテーション特別講座」

12月6日 東海大学 長沼 君主 准教授

同日に行われた第二回生徒課題研究発表会での発表を例に挙げ、聞き手を惹きつけるプレゼンテーションについてご助言をいただき、生徒たちも積極的にそれぞれの意見を交わしました。また、英語での発表練習に関しても堂々と言うことができ、生徒たちは自信を深めたようでした。

②「英国史特別講座」

12月16日 地歴公民科 諫本 和典 先生

英国の気候や風土から中世の歴史に渡るまで、訪問先である英国について幅広く非常に興味深いお話をいただきました。2時間を越える講義にも、生徒たちは終始集中して先生のお話を拝聴し、英国へ行くことに対する期待感が高まったようです。

③「科学史特別講座」

12月18日 理科 辻 和宏 先生

英国の科学者やケンブリッジ大学の研究機関の業績等について、スライドや実験を交えながら分かりやすくお話していただきました。科学倫理に関する話題も提供していただき、生徒たちの視野がまた一つ広がったように思われます。